



おみやげプロジェクト

地域住民と一緒に WS を通して地域の魅力を見直ししながら、おみやげのプロトタイプを作る。
将来的に商品として販売する方法を模索する。

塩江小6年生 ねむの木学習

塩江町の魅力を外部に向けて発信する地域学習に年間を通じて関わる。
授業内容の提案、学校と地域の橋渡し、問題解決に務める。

●しおのえ石鯨の制作

塩江をイメージした石鯨を作る WS を開催。岩部八幡のイチョウ、竹、アマゴ、大蛇伝説、不動の滝などのカラフルな石鯨が完成した。

●手ぬぐいの制作

塩江の自然をイメージした手ぬぐいを制作した。イノシシ、コオイムシ、カワニナ、ヌマエビなどの塩江にしかない生き物が、こどもたちの個性的なイラストで描かれている。

●その他

- ・スタンプラリーの実施 (手ぬぐいをプレゼント)
- ・ガイドブックの制作



しおのえガチャポン

小学生の制作した「しおのえ石鯨」と町民が制作した「しおのえ」バッジをガチャガチャに入れて、設置。
町の商工会青年部や観光協会のお店で買い物や体験をする
と、ガチャポンチャレンジ券を渡す仕組み。
町内、町外の人がガチャポンにチャレンジし、約 170 個の景品を手渡すことができた。石鯨とバッジにはそれぞれ作った人からのメッセージが書かれており、塩江の魅力を伝えるためのコミュニケーションツールとしての働きもする。
当日は塩江小のこどもたちがお手伝いとして参加。お客さんへの呼び込みや説明に大活躍。こどもたちは普段、町外の人との接触が少ないため、初対面の人へ自らの言葉で説明し、コミュニケーションをとる、良い機会になったと思う。

町民向け WS の開催

●しおのえバッジの制作

塩江の心に残る風景をイメージし、バッジを制作。主に高齢者が参加。春の山、新緑、内場池、キャンプ場、紅葉、雪景色、など色とりどりのバッジが完成。



地域協働事業

地域と協力隊で行う協働事業を通して関係性を構築する。

●いざ里山

高松市農林水産課による 5 年間の補助事業「いざ里山市民活動支援事業」の手伝い。月 1 回、旧上西小学校東側の地域の山林と里道の整備。主に上西住民や有志メンバーと協働で行う。

●四大まつり手伝い

4 大まつりなどの各種イベントを手伝う。運営、設営など。

●炭谷ごぼう

塩江の伝統野菜「炭谷ゴボウ」の栽培協力。炭谷ゴボウ保存会の有志メンバーと行う。

●塩江小 蕎麦栽培 竹あかり

塩江小学校の総合的な学習の時間で蕎麦「高嶺ルビー」の栽培を行い、収穫後は製粉、そば打ちまでを地域の方と一緒にやる。また、竹あかりのイベントに向けた竹のランプシェードづくり、竹箸づくりの体験の準備や補助に関わる。

●お茶栽培手伝い

上西地区の担い手の少ないお茶栽培を手伝い、収穫体験やおみやげ開発の可能性を探る。

●まちあかり

町の竹あかりチーム「しゅちく」が主催する、温泉通りに灯りをともしイベントの手伝い。

●夏休み課題支援

塩江小の夏休みのポスター課題の制作指導。

●上西ふれあい会

毎週 1 回開催される、上西の高齢者の居場所づくり「ふれあい会」での、ものづくり体験やワークショップの開催。開催のための補助など。
今年度は直島の協力隊員の協力を得て、瀬戸内国際芸術祭期間中に「直島遠足」を実施した。

今後の課題と抱負

課題

- ・町外への広報の弱さ
- ・任期後も見据え、継続的におみやげの生産ができるか
- ・小学校授業とのスケジュール調整の難しさ

来年度試みたいこと

- ・町外へ活動の場を広げる (SNS の活用、マルシェやイベントへの参加)
- ・協力企業、団体との連携。補助金だけに頼らず生産する方法の模索。
- ・第 3 の場づくり→町内・町外向け
 - ★家庭でも学校でもない場所
 - ★家庭でも職場でもない場所 (アトリエの解放、定期的な WS の開催)

